

R4年度大阪府支援教育研究会 ICT 活用講座「お役立ちリンク集」

はじめに

今年度も大阪府支援教育研究会 ICT 活用講座に沢山の皆さんにご参加いただき、ありがとうございました。スタッフ一同、今年度こそは「集合しての対面研修会ができるかな？」と淡い期待をしていましたが、残念ながら今年度も完全オンラインでの実施となってしまいました。オンライン実施の判断が遅くなってしまい、講師の先生方、参加者の皆さんにはご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ございませんでした。また、講師の先生方には直前の実施方法、内容変更にご対応いただき、ありがとうございました。会全体としては、大きな混乱が起こることなく、滞りなく二日間の研修をじっしできたのは、皆さんのご協力のお陰と思っています。ありがとうございました。

少しでも皆さんの学びが深まり、2学期以降の実践に活かしていただけるよう、各講師の先生方のお話の中で話題となった Web 上のリンク集を作成いたしました。ぜひ、ごかつよういただき、指導実践に活かしていただければ、幸いです。

18日金森克浩先生「なぜ特設支援教育に ICT 活用なのか」

講座の中で話題になった文部科学省や総務省の関連する情報です。

教育の情報化に関する手引き（文部科学省）

[「教育の情報化に関する手引\(令和元年12月\)」：文部科学省 \(mext.go.jp\)](https://www.mext.go.jp/education/information/202312)

「安心安全な利活用とデジタル・シティズンシップ教育」（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/result_js.htm?q=%E3%83%87%E3%82%B8%E3%82%BF%E3%83%AB%E3%82%B7%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%BA%E3%83%B3%E3%82%B7%E3%83%83%E3%83%97%E6%95%99%E8%82%B2&search=x#resultstop

教育情報化の推進（総務省）

[総務省 | 教育情報化の推進 \(soumu.go.jp\)](https://www.soumu.go.jp/education/information/)

金森克浩（帝京大学）先生のページ

Kinta のブログ ANNEX

<https://www.assistivetechology.cfbx.jp/kinta/>

特別支援教育や ICT 利活用に関する情報や先生ご自身の活動などを集められたブログです。どこよりも豊富で有用な情報の宝庫です。

福島勇（国立高専機構熊本高等専門学校）先生（元福岡市立特別支援学校教員）のページ

Sam's e-AT Lab

<https://sam-eatlab.blog.jp/?p=2>

福島先生が実際に行かれた特別支援学校や福祉施設への訪問コンサルテーション活動や講演活動が記録されたブログです。ICT 機器のプレビューなどもあります。

YouTube チャンネル「174iamsam」

<https://www.youtube.com/user/174iamsam>

福島先生が実際に操作されている、ICT 機器のレビューや iPad や PC 機器のアクセシビリティ機能などの動画があります。また、実際に対象の児童生徒や方もされた施設での利用者さんの利活用場面の動画もあります。

ドロップレット・プロジェクト

<https://droptalk.net/>

講座の中で話題になった長野県立長野特別支援学校の青木高光先生が代表を務める「ドロップレット・プロジェクト」の Web ページです。コミュニケーション・シンボル「ドロップス」はドロップレット・プロジェクトが開発したシンボル・ライブラリーです。特別支援教育に関わりのある皆さんなら、どこかで見たことがありますよね？

DropTap

https://droptalk.net/?page_id=6496

コミュニケーション・シンボル「ドロップス」2000 語のシンボル・音声搭載の iPad 用「コミュニケーション支援 APP.」です。

GIGA スクール構想で導入された iPad には無償配布をされています。全国の GIGA 導入 iPad の 4 台に 1 台には搭載されている計算となる 6 7 万本の無償配布をされています。

個人の iPad には有償版を導入してください。

DropNews

https://droptalk.net/?page_id=7306

コミュニケーション・シンボル「ドロップス」を使った毎日配信されるイラストニュースです。今年度は無料での配信となっていて、サービス開始からの登録者は 2 か月半で 2241 名の皆さんへの配信が行われているそうです。

TeachU

<https://musashi.educ.kumamoto-u.ac.jp/>

講座で話題になった後藤匡敬先生（熊本大学教育学部附属特別支援学校）の運営されている教材提供 Web サイトです。

SOZO. Perspective Web サイト

<https://sozo-perspective.com/>

こちらも講座で取り組みが紹介されていた東京都立石神井特別支援学校で実践をされていた、海老沢穰先生の運営される Web サイトです。海老沢先生は現在、「一般社団法人 SOZO. Perspective」の代表理事を務められています。その活動は多岐にわたっています。

19日 AM 講座「バーチャル ICT 機器体験会」

PM 講座「簡易 BD アダプター&楽器叩き器」バーチャル製作会」

実際に会場にお越しいただき、皆さんに体験や製作をしていただきたいと思っていたのですが、いまの社会情勢ではちょっと難しかったです…またの機会を設定できれば、と思っています。「何がバーチャルだったのか？」と言われると若干苦しい部分はありますが、運営要員の研究部員のお二人に皆さんを代表して実際に体験をしていただきました。

COSMO

<https://cosmo.upit.co.jp/>

COSMO を扱っている代理店株式会社アップイトさんの商品紹介 Web ページです。開発元の英国 Filisia 社の Web ページはこちらになります。

<https://www.filisia.com/>

もちろん福島先生の YouTube でも動画で説明がされています。

https://www.youtube.com/watch?v=rQMvaaXtf_8

<https://www.youtube.com/watch?v=vNT3HPaBCCs&t=2s>

その他にも実際に活用されている場面の動画もあります。

視線入力について

ポランの広場 視線入力練習ゲーム「EyeMot」

<https://www.poran.net/ito/>

伊藤史人先生（島根大学）の研究室チームが開発している視線入力練習ゲームソフトが「EyeMot」です。こちらは、伊藤先生が運営されている個人 Web サイトですが、視線入力に関する情報が沢山あります。「EyeMot」のダウンロードもこちらからできます。

チャットで話題になった視線入力装置で利用できるマウスコントロール APP>の紹介です。

Unicorn

<https://www.e-unicorn.co.jp/>

視線入力で操作できるマウス、キーボードによる PC 操作ができるアプリ「miyasuku EyeConMouse」などを開発・販売している広島にある「ユニコーン」社の Web ページです。大阪府立の肢体不自由支援学校には「miyasuku EyeCon LT2」が導入されていたと思います。というか、私（根本）は試しています。残念なことに児童生徒で試したことはないですが…次に紹介する伝の心と OriHime eye+Switch はマウス操作と言うより「意思伝達装置」としてが主な用途となり、開発されます。ある程度 PC 操作への理解が必要となりそうです。

伝の心

<https://www.hke.jp/products/dennosin/denindex.htm>

株式会社日立ケーイーシステムズが開発販売している身体の不自由な方のための意思伝達装置「伝の心」の製品情報です。スイッチ入力

OriHime eye+Switch

<https://orylab.com/product/orihime-eye/>

分身ロボット「Orihime」を開発している Ory 研究所が開発して「OriHime eye+Switch (オリヒメアイ プラス スイッチ) の製品情報です。「OriHime eye+Switch」は、文字入力や合成音声でのスピーチができる意思伝達装置です。

視線入力でのマウス操作については、谷本先生より「高機能の者が制度が良いですよ。」とのコメントをいただきました。

視線入力を試用、導入したいときに参考になるドキュメントファイル

「視線入力装置入門」

https://www.poran.net/ito/download/hagemi_20170607

伊藤先生が「はげみ」に執筆された「視線入力装置入門」

「視線入力装置入門2」

https://www.poran.net/ito/download/hagemi_20180607

伊藤先生が「はげみ」に執筆された「視線入力装置入門2」

「これからはじめる視線入力」

https://www.poran.net/ito/download/korekarano_shisen_20181024

伊藤先生の講演まとめ

「視線入力のススメ」

https://www.poran.net/ito/download/moriokatonan_202005

岩手県立盛岡となん支援学校の伊藤篤司先生が作成された「視線入力のススメ」です。

以上の4つのドキュメントファイルはどれも伊藤先生の Web ページからダウンロードできます。その他にも各校での実践報告など、様々なドキュメントファイルを置かれています。予算獲得時の参考資料として有効利用せてもらえるのではないのでしょうか？

MimicryPet

<https://www.takaratomy->

[arts.co.jp/specials/mimicry/?fbclid=IwAR3yckLIEjTqUP_RnvdfBiLcYu6z0puChXsIhJpW0yk4vHx9qpVNIbn5ywc](https://www.takaratomy-arts.co.jp/specials/mimicry/?fbclid=IwAR3yckLIEjTqUP_RnvdfBiLcYu6z0puChXsIhJpW0yk4vHx9qpVNIbn5ywc)

チャット欄で話題になっていたものまねをしてくれる「MimicryPet ミミクリーペット」の製品紹介 Web サイトです。

Pechat

https://pechat.jp/?fbclid=IwAR3dWCFnct2N77cl_e0XyVHs1ctwaGns5-fr_vQE-TZwYQjp7ScPHp1nbvI

R4年度大阪府支援教育研究会 ICT 活用講座「お役立ちリンク集」

心を通わせるおしゃべりボタン「Pechat ペチャット」の製品紹介 Web サイトです。iOS や Android 端末と連携して、専用アプリを使って、おしゃべりをしてくれます。手持ちのぬいぐるみにボタンをつけて使用するそうです。

こちらの上記二つともに私は実際に使用したことはありませんが、よくおもちゃ屋さんで見かける「話しかけるとダンスをする」や「話しかけるとボイスチェンジをしてオウム返しをする」ぬいぐるみの類で子どもたちが楽しんでいる姿はこれまでよく見かけています。人前ではおしゃべりが難しい子がいつもより大きい声や、発語にならない発声ができる子が一生懸命話しかけている姿を見てきました。

JA 教育研究会

<https://www.ne.jp/asahi/ja/asd/jaera/>

さまざまな自作のスイッチや支援機器、改造おもちゃなどを多数紹介していただいた浅田寿展先生（元兵庫県中学校技術科教員）の Web サイトです。

北神戸スイッチルーム

<http://www.hidapio.jp/nksr/nksr.htm>

同じく、浅田先生が開設されている「北神戸スイッチルーム」の Web サイトです。浅田先生考案・自作のスイッチ類や改造おもちゃ、支援機器などの販売をされています。

マジカルトイボックス

<https://magicaltoybox.org/mtb/>

午後から「バーチャル製作会」を実施していただいた「マジカルトイボックス」Web サイトです。

今回はマジカルトイボックスから大井雅博先生（帝京大学教育学部 講師）、谷本式慶先生（東京都立小平特別支援学校 主幹教諭）、渡辺彩先生（東京都立葛飾ろう学校 教諭）の3名の先生方にご来阪いただきました。

参加者に送らせていただいた「簡易 BD アダプター&楽器叩き器」については、谷本先生からご提供いただいた PDF. ファイルをご参照ください。

大阪支援教育コンピュータ研究会

<https://www.facebook.com/daicom>

手前味噌ですが…大阪で支援教育でのコンピュータや支援機器の利活用について研究している研究会の Facebook ページです。今回の大支援研 ICT 活用講座に協力をさせていただいています。ここ数年は他の研究会同様にオンラインでの活動が続いています。

以上が講座に関連した Web サイトのリンク集となります。どうぞ今後の参考にご利用ください。

おわりに

気がつけば6ページにもわたるリンク集となってしまいました。ところどころのコメントは私（根本）が記したものですので、直接講師の先生方には関係ありません。ご質問などあれば、根本までよろしくお願いします。

まずは知ることから始め、次は「真似すること」です。福島先生の動画などはとても参考になるかと思います。先生方が実際に体験をしてみて、その後ご自身の目の前の児童生徒にどのような使い方ができるか？のイメージを膨らませていただければ、あとは実践あるのみです。実践をしてみて、「上手いかない。」ことや「思っていたような効果が感じられない」、最悪「失敗してしまう。」こともあるかもしれません。そこは金森先生が仰っていたように、「うまくいかにことを楽しむ」「『難しいからやらない』と考えるのか『新しいことを学べると考えるか』」を実践できるまたとない機会です。ちょっと目の前に子どもたちがいるので、本番ではあまり失敗はしない方が良いかもしれませんが…そこも金森先生の言葉を借りれば「予備実験をする」ことが大切です。「授業準備」や「教材研究」と言い換えることができますね。

ICTの教育の導入が始まり、新型コロナウイルス感染症への対策の一環としてGIGAスクール構想は随分と前倒しとなり、学校教育の大転換期を迎えています。児童生徒に対する我々教員の立ち位置もこれまでメインだった「知識の伝達」や「教える」といった事から、「主体的に学ぼうとする」児童生徒の「サポーター」や「伴走者」といった立場が求められているように思います。また、児童生徒には「学びたい」という意欲や姿勢を求めるわけですから、教員自身も「学び続け」その指導力を「アップデート」していかなければならないのかもしれない。

早いところはそろそろ2学期が始まる時期ではないでしょうか？参加していただいた方の中には馴染みのない話に「ちょっと難しいな？」と思われた方もいらっしゃるかもしれません。直ぐに授業や教育活動に利活用できなくても、もし日頃の指導場面で困ったときに「あっ、あの時に聞いた方法は使えないかな？」などと、思っただければと思います。

それでは、またの機会に皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

大阪府支援教育研究会本部担当書記
根本貴明（ねもと たかあき）
大阪府立箕面支援学校 小学部